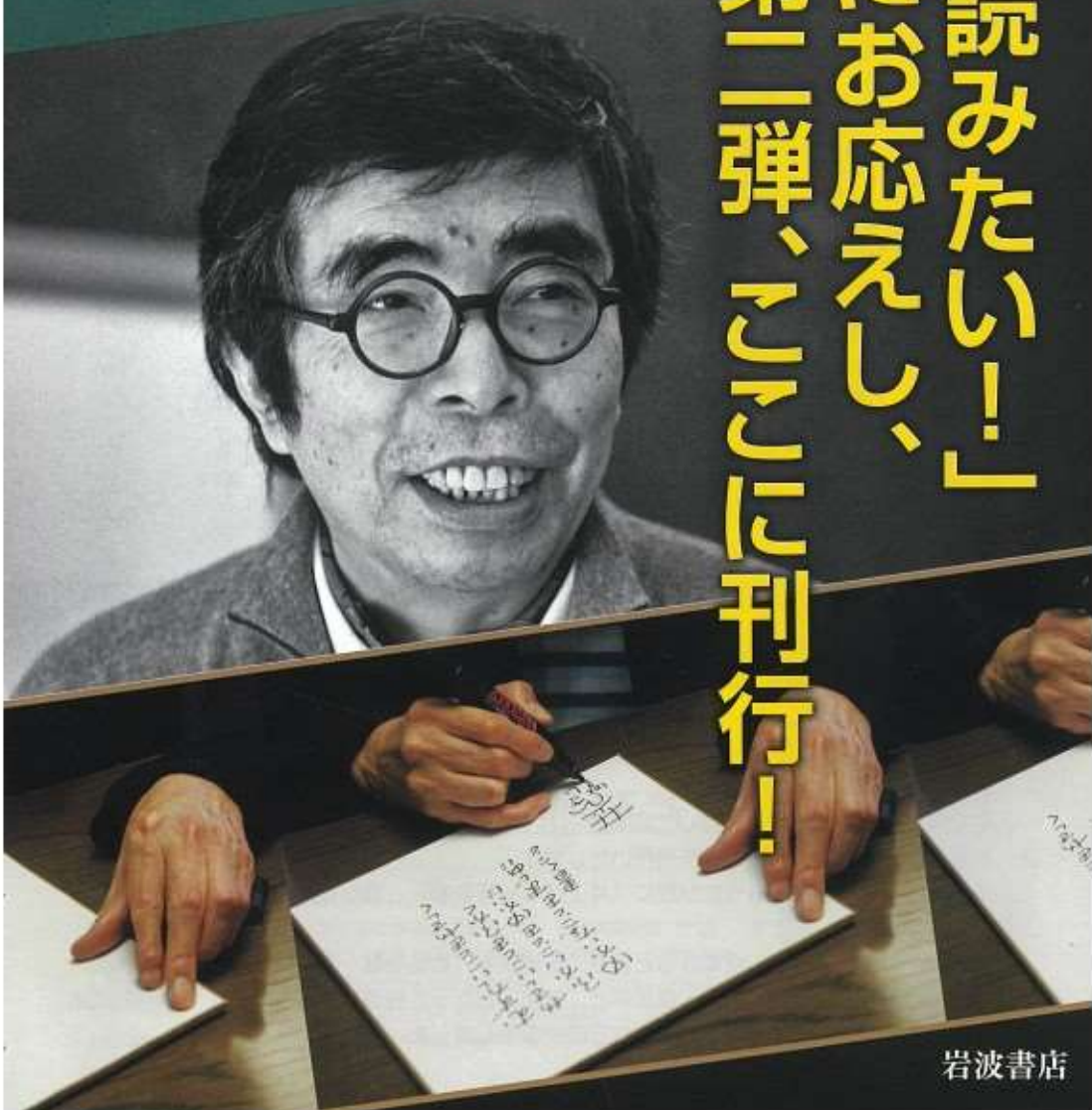


# 井上ひさし 発掘エッセイ・ セレクションⅡ

全3冊

「もつと読みたいー！」  
との声にお応えし、  
待望の第二弾、ここに刊行!!





## この世の真実が見えてくる

まじめに、そしてゆかいに世の中を見つめる——幸福論・国家論から青春時代の思い出まで。そして著書未収録のまま残されていたパロディをよりすぐって収める

【本文より】

\*政治を他人事のようにテレビで見物してすませてしまうのではなく、普通の人がたちが体ごと政治にぶつかって行っていた時代もあったのだ。戦後史にあのよくな時代のあったことを、日本人の一人としてわたしは密かに誇りに思う。

【あのころのデモがあんなにも烈しかった理由】(東京人、一九九四年八月号、都市出版)より  
\*あらゆる国家は過去において必ず間違いを犯す。悲しいことだが、これは避けられない運命である。しかし、ここから先が、その国民の質と未来を決定する。(後略)

【愛国者と売国奴】(不破哲三「歴史教科書と日本の戦争」巻頭特別寄稿、二〇〇一年一月、小学館)より

\*戯曲を書くときに、いつも視点を「人間は蜂蟻や蚊とんぼと同じようにやがて間もなく死ぬべき存在である」というところに置いておくことを思い出した。

【週単位・三年単位・一生単位】(「波」一九七二年九月号、新潮社)より

## 客席のわたしたちを圧倒する

生涯を通して、愛し、観つづけた映画、芝居、そして野球——黒澤明・藤純子・馬場のぼる・ひよこりひよたん島・スワローズ・野茂・イチローなどに寄せる思いを、熱く綴る

【本文より】

\*いい芝居は観客の心を動かし、そのことに励まされて俳優は信じられないような力を発揮し、それをまた観客が感じとって……という具合に、芝居小屋では俳優と観客とが力を合せてその演目の質を高めていくこともしばしば起り得るのである。「観客なしには絶対に完結されぬもの」——これがどうも演劇の本質のようだ。そして「観客なしには絶対に完結されぬもの」を、ともかく一応前もって完結させた形で作りあげざるを得ぬところに、演劇のむずかしさがあるらしい。

【め・舞・眼】(「新劇」一九八六年六月号、白水社)より

\*野茂投手のすばらしさは、頭の中には野球しかなく、祖国日本もへったくれもないところにある。彼はただ自分の力がどこまで通用するのか、それを最高の舞台で追求しているだけなのだ。

【原田賢吉】(Number)一九九五年八月三日号、文藝春秋)より

## まるまる徹夜で読み通す

ことばへのこだわり、読むことへのこだわり——本の帯、内容見本、パンフレット、広告などに掲載の膨大な推薦文から百本を一挙掲載。ことばさまざま、広辞苑への愛など

【本文より】

\*存在するのは「おれの英語」に「おいらのフランス語」に「拙者のインドネシア語」に「わたしの日本語」——それだけである。

【正しい英語】はあり得るのか(「月刊ことば」一九七八年二月号、英潮社)より

\*時との戦いは常に人間に不利だが、しかしどうあっても全人類の総合的智恵は古典を守り通さなくてはならないのだ。でなければ、人間は人間でなくなってしまうだろう。そして古典を守るとは、つまり古典を読むことにほかならない。

【世界古典文学全集】全五十巻・五十四冊(筑摩書房)内容見本より

\*大衆芸術家の仕事は、大衆に媚びることではなく、大衆がそれとは知らずに持っている教智を探り出し、それにはつきりした形を与えることだろう(後略)。

【添田亞輝坊、知道著作集】全五巻、別巻一(刀水書房、一九八二年刊行開始)内容見本より

さらに発掘を続け、著書未収録のエッセイを三冊に編みました!

## 井上ひさし

(1934~2010)



## 著者略歴

山形県東置賜郡小松町(現・川西町)生まれ。上智大学卒。放送作家などを経て、作家・劇作家となる。「手鎖心中」で直木賞受賞。小説・戯曲・エッセイと活躍の場を広げ、数多くの作品を発表。その傍ら社会的な発言も積極的に行い、「九条の会」呼びかけ人なども務めた。『井上ひさし発掘エッセイ・セレクション』全3冊、『井上ひさし 短編中編小説集成』全12巻(いずれも岩波書店)など著書は多数刊行され、今も読み継がれている。

## 刊行にあたって

著書未収録のエッセイを選び抜いて収めた「井上ひさし発掘エッセイ・セレクション」。ご好評にお応えし、ここにその第二弾を刊行いたします。

発掘の元は、同姓同名であったが故に〈井上ひさし研究者〉となった井上恒氏の手による「井上ひさし著作ファイル」です。

そこには、単行本、文庫、全集はもとより、新聞記事、雑誌連載、会報誌・機関紙・内容見本・書籍の帯への寄稿、講演録、対談・座談など、長年にわたって丹念に収集された膨大な数の作品が収められています。その中から、新たな三冊が誕生しました。



没後10年記念出版

# 井上ひさし 発掘エッセイ・ セレクション

全3冊

まだまだあった！  
読んだことのないエッセイと、  
きつと出会えます

岩波書店



## 社会とことば

ISBN 978-4-00-028148-5  
本体2000円

## 芝居とその周辺

ISBN 978-4-00-028149-2  
本体2000円

## 小説をめぐって

ISBN 978-4-00-028150-8  
本体2000円(税別)

### 特色

- ◆ 井上ひさし著として刊行された書籍に未収録のエッセイおよび周辺の作品を、さらに精選しテーマ別に編集。
- ◆ 三冊のテーマは、著者が仕事の軸とした「社会・文化」「演劇」「小説」。
- ◆ 必要に応じて、エッセイの末尾に簡潔なコメントを付す。
- ◆ 巻末に、井上ユリ氏による「あとがき」を付す。
- ◆ 編集協力：井上 恒（井上ひさし研究室）

四六判・上製カバー・平均208頁  
〈写真〉落合高弘

●お取り扱いは

2020.3



### 岩波書店

〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5  
電話 03(5210)4000(案内)  
<https://www.iwanami.co.jp/>  
[定価は表示価格+税]



# 社会とことば

釜石小学校校歌「社会」ラジオ小劇場「ツキアイ  
きれない」／吉里吉里国のキリキリ舞い／ウインプ  
ルドン農園／安全第一／コメの話／世界の流れの中で  
考える日本国憲法／死の前での平等／反原発運動は  
保険料である／政治家の国語辞典 ほか

【ことば】ことばの泉／ニホン語日記より／楽園の創  
造／好きなもの／戦後の日本語教育を語る／ほくの好  
きな古語辞典／大野晋先生を悼む「正確な日本語」に見  
た希望 ほか

# 芝居とその周辺

私のチャップリン観「自作の周辺」庭先の真理／より鮮明  
になる記憶／子規はグラブを手にはめていたか。／二人の  
漱石／吉野作造と鞍馬天狗／道元とその時代 ほか

「レッスンシリーズとその補講」黄金の大規則／井上ひさしの  
シェイクスピア・レッスン／チェーホフ・レッスン／「コメディ！  
レッスン」／てんぷくトリオのコント ほか

「芝居の交友録」杵、あるいは制約について  
／河竹登志夫著「作者の家」解説／著者の  
修辭技法は修辭なき文を癒す（当世病氣道  
楽）別役実／たけしさんへの手紙／定説破  
りの快作（渡辺保「黙阿弥の明治維新」） ほか

「絶筆ノート」舞台は一人で作れない／絶  
筆ノート ほか

# 小説をめぐる

「来し方・土地の記憶」南京婆のやってくる道／川西一中・二中校歌  
／「若尾文子に間に合わなかった会」のこと／わが心はあなたの心であ  
れかし／仙台駅頭の老夫妻への言付け／文化とは何か ほか

【ことばの本の虫】柳田国男への挨拶／彼のやりたかったことのリスト（宮  
沢賢治）／文学的悲劇／さすらいの詩人（石川啄木と寺山修司）／「太鼓」の音が  
近づいてくる（小熊秀雄） ほか

【交友録】戯作者遠藤周作／左京さんに二度逢って／谷川俊太郎と日本語／俳  
諧味といい女（藤沢周平）／四つの謎（丸谷才一）／謎と発見（村上春樹） ほか

【自作を語る】二人の神父／『東京セブンローズ』の十年間／心残りもうひ  
つつのあとがき／イソップ株式会社連載小説の喜び ほか



汲めども尽きぬ傑作群から、著書未収録のエッセイを選び抜きました。

## 刊行にあたって

井上ひさしが亡くなり、今年で十年。  
もう新たな作品は読めない、とお嘆きの方も多いこ  
とでしょう。でも、これまで著書に収められなかつ  
た作品が、多数あるのです。こんなにたくさん書いて  
いた！と、驚かされます。  
没後十年の機会に、新聞、雑誌等で好評を得ながら、  
著書に未収録のエッセイを選びすぐり、三冊に編み  
ました。各冊のテーマは、生涯、仕事の軸とした「社  
会・ことば」「演劇」「小説」。まだ読んだことのない  
作品が、必ず見つかるはず。これなくして、井上  
ひさしは語れません。どうかお見逃しなきよう。



## 井上ひさし (1934~2010)

### 著者略歴

山形県東置賜郡小松町(現・川西町)生まれ。上智大学卒。  
放送作家などを経て、作家・劇作家となる。「手鏡心中」で直木賞受賞。小説・戯  
曲・エッセイと活躍の場を広げ、数多くの作品を発表した。その傍ら、「九条の  
会」呼びかけ人なども務め、社会的な発言も積極的に行った。「井上ひさし 短編  
中編小説集成」全12巻(岩波書店)など、著書も多数刊行されている。

